

# 時の動き

## 日本政府を変え、世界を動かし、禁止から廃絶へ

日本原水爆被害者団体協議会 代表委員 **田中 熙巳**



### 日本被団協が受賞した理由

今回、「ノーベル平和賞」を受賞し

ましたが、これまでも1985年以来何回もノミネートされてきました。機会があつたが、受賞できませんでした。ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)が2017(平成29)年に受賞しています。なぜか、私たち「日本被団協」の名前が一言も出ませんでした。それを思うに、ノルウエーはNATO加盟国であり、「核兵器禁止条約」に批准もしていません。日本被団協にノーベル平和賞を受賞させると、アメリカの原爆の犠牲者に賞をあげたことに

なるわけです。多分にそういった配慮があつたんだろうと、私たちは思ひ判断してきました。

それなのに、なぜ、今回日本被団協に授賞したのか―その根拠は、各地で戦争・紛争が起こっている国際情勢から考えて、アメリカに気配り・配慮を考えている時ではない、2021年に「核兵器禁止条約」が発効し、世界的な大きな流れができた今、情勢を立て直すためには日本被団協しかない判断したと思つています。

もう一つは、ノルウエーの議会が、核兵器に反対するメンバーになりました。ノルウエーの委員会は、議会が選

出します。だから、政治が反映します。議会も委員会も変わり、アメリカに気づかない判断が出たと思つています。この二つの理由で、初めて日本被団協の名前が出て受賞することができました。

### 日本被団協の運動

敗戦から7年間のアメリカ占領下では、運動はできませんでした。その後も日本政府は何もしませんでした。国内の「反核運動」の盛り上がりで、ようやく原爆被害者もものを言うことができました。10年後の1955年

## ◆時の動き

8月「原水爆禁止世界大会」が広島で開かれ、翌56年に第2回世界大会が長崎で開かれ、大会に参加した原爆被害者によって同年8月10日に「日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）」が結成されました。それ以来、約70年一貫して「核兵器廃絶」と「原爆被害への国家補償」を、国内外に訴えてきました。具体的には、「国連」を動かしてきました。

### 受賞後の変化は

受賞が決まり、国際的に日本被団協受賞への歓迎の声があがりました。しかし、日本政府は、核兵器禁止条約に「署名」も「批准」もしていません。日本の運動もまだそこまでいいというところで、非常に残念です。70年もやってきたのに日本政府は変わらない、変えきれてない、というのは歯がゆいです。

### 今後の運動の方向性は

先日、石破首相と面会しましたが、「おめでとう」というパフォーマンスで終わりました。後で「お話ししましょうね」と、言い残してきました。今後、改めて申し入れをする予定です。

昨日（1/28）の国会答弁を聞いてみると、核兵器禁止条約締約国会議へのオブザーバー参加はまだ決めていませんね。揺れています。与党の公明党は参加すべきと議会で言っています。与党で反対するのが自民党だけとなります。これをどうやって切り崩してゆくか、これからの課題です。首相の石破さんはもう少し時間が欲しい、と思っているだろうし、議論が動き、世論に押されれば、認めると言わないとも限りません。私の今日（29日）までの感覚です。

やっぱり世論の盛り上がりや野党の

役割です。野党がこぞって「やれ！」と言ったら動くと思います。野党の中に一二つくらいが、まだ「安全保障」とか「核の抑止力」と言っています。本当は、そんなことを言っている場合ではありません。

日本政府は核兵器禁止条約の締約国となつて、その締約国の中で核兵器廃絶の先頭に立て、というのが日本被団協の考え方です。

核はどこで使っても地獄、人類の滅亡になります。しかも、約4000発を超える核兵器が、すぐに発射できる体制にあります。緊急に「絶対、核は使わせない」という運動を、国の内外で強化してゆく必要性をますます感じています。そしてその先に「廃絶」があるのです。

皆様方より一層のご協力とご支援をいただき、一緒に「核廃絶」に向けた運動をつくってゆきましょう。

（たなか てるみ）